

Desert Wind (No.20)

Las Vegas Japanese Community Church

JULY 2008

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山未樹

「感謝がもたらすもの」

LVJCC 牧師 鶴田健次

昔、備前の富岡村に『ありがた一兵衛』という人がいたそうです。朝起きると「おはよう」のかわりに、「ありがたい、ありがたい」と言います。何がそんなにありがたいのかというと、「朝起きて、家族の顔を見られてありがたい」のだそうです。またある時、小雨が降りだし急いで帰ろうと滑って転び、そこでもまた「ありがたい、ありがたい」。転んで擦りむいて一体何があるのかとたずねると、「自分の落ち度で骨折してもよさそうなところを、ただの擦り傷ですんでありがたい」…。確かに、私たちは、感謝しようと思えば、どんな時にも感謝することはできるものです。

水泳の練習中に、事故で首から下が付随になられた、ジョニー・エレクソン・タダというクリスチャンがいっぱいいます。素晴らしい信仰の持ち主で、アメリカのみならず、世界中で講演活動をしてらっしゃる彼女がこんなことを言っておられます。「新しい事に気づいてほしい。弱い人が、家庭や教会に必要だということを…。神様は自分自身に頼る人ではなく、自分の弱さを認め、神様に頼る人に力を与えて下さるから。だからこそ、私たちは弱さの中に誇りを持つことができる。神様を感じることもなく毎日を忙している人が、いちばん重度の障害を持っているのかも知れません」。

ジョニーさんは、目に見える障害だけが問題なのではなく、神様を必要だと感じないことこそが問題なのだとおられるのです。困難にぶつかった時、すぐにその意味を知りたい、答えを欲しい、そう思うのが人間です。しかし神様は、すぐには答えを下さらないことがしばしばです。彼女自身、自分の身に起こった出来事に、「神様、なぜですか?」という問いを繰り返したそうです。

しかし、彼女が長い祈りの葛藤の中で気付かされたことは、「私は答えを求めていたけれど、神様は既に、ご自身の命を私に与えて下さっている。だから、この神様がすべての答えなのだ」ということだったそうです。簡単に問題を解決したいと思う人間、簡単に答えを与えようとするこの世の宗教、しかし、そういうものはすべてまやかしかであり、本当の答えも解決も与えません。ただ、十字架で極限の苦しみと痛みを担って、私たちに火のような愛を下された方がいらっしゃる、このキリストの愛こそが、どんな問題にも光を注ぐことができるのです。

ジョニーさんは毎朝、「神様に感謝する心を与えて下さい。微笑みを与えて下さい。」と主にお祈りし、一日を始められるそうです。人の世話にならずには自分で自分の体を動かすことは出来なくても、感謝の言葉や、微笑みは与えることができるので、その感謝の心と微笑を与えて下さいと神様に祈るのだそうです。こんな大きなハンディを背負っている人が、今日も生

かされていることを感謝し、毎朝、心からの感謝をもって一日を始められるとしたら、それは何と豊かな人生でしょうか。また、それを可能にして下さる神様という方は、何と素晴らしい方でしょう。

神様は、「すべての事に感謝しなさい」と言われました。良い時に感謝することは、誰にもできることです。良い時にも感謝しない人もたくさんいます。しかし、苦しくて、悲しくて、大変な状況の中にあっても、感謝ができるとすれば、それこそ御霊によって生きるクリスチャンの姿です。アイジャック・ワットンは、「神様には二つの居場所がある。一つは天国であり、一つは神様を愛し、感謝をする人の心の中である。」と言いました。

皆さんは如何ですか? 小さい事にも感謝をする生活をしたら、私たちの人生は積極的、肯定的な人生に変えられます。一方、神様が与えて下さった恵みに感謝もせず、不平不満や愚痴ばかりを言っていたら、持っているものまでも失ってしまいます。これは神様の法則です。ある人が、「神様は、ろうそくの明かりに感謝したら、電燈の明りを下さり、電燈の明りに感謝したら、月の明りを下さり、月の明りに感謝したら、太陽の光を下さる。また太陽の光を感謝したら、何の明かりも要らない天国を下さる!」と言いました。感謝は、すればするほど、もっと感謝すべきことが生じることです。これもまた神様の法則です。

証し

MORELAND 栄子

イザヤ書 41 章 10 節

恐れてはならない わたしはあなたと共にいる
驚いてはならない わたしはあなたの神である
わたしはあなたを強くあなたを助けわが勝利の
右の手をもってあなたをささえる。

私は沖縄で、母子家庭で育ちました。クリスチャンの母が行商をし、肉体労働日雇い、そして貧しい生活でした。でも不思議と辛いと思ったことはありませんでした。母はいつも乏しい家計からまず教会に行くためのバス賃と献金を取って、その残りを生活費にあてていました。毎週日曜礼拝を守り、姉、兄、私たちにキリストの愛を実践する母でした。ただ、クリスチャンの母を持つからといって、子供達もクリスチャンかというところではありませんでした。毎週行く教会は習慣としての一部であり、特に罪の意識や、福音のメッセージを自分のものにしていただけではありませんでした。

私とイエスキリストとの本当の出会い、23歳の時でした。アメリカ兵であった主人との結婚を考えていましたが、国際結婚ということもあり、家族を含む周囲の人皆から反対されました。周りには誰も賛成してくれる人はおらず、そのことで深く悩み、その辛い時期に、母が信じる神様に祈り求めました。祈るうちに、私はどんどんイエス様を身近に感じるようになり、十字架の贖いが私のためであったことを確信し、イエス様を信じる信仰を持ってから結婚したいと思い、23歳の時に受洗しました。その時の喜びは今も忘れることができません。

1985年にラスベガスに来ました。その5年後に主人が亡くなり、主人がいた時には運転さえすることはありませんでしたが、主人が亡くなった後、自分でも運転する必要に迫られました。その年の7月に生まれて初めての車の運転免許書を取り、自分で運転して仕事に行くようになりました。

運転するのが怖かった時、イザヤ書 41 章 10 節の御言葉が私の心に響いてきました。神様が必ず支えてくださるから、これからも大丈夫だと思い、この御言葉から沢山の勇気を得ました。不信仰、不誠実な私ですが、この私さえ愛してくださる神イエスキリストを救い主としてこれからも信仰生活を歩んで行きたいと思いました。その当時ラスベガスには日本人教会がなく2002年まで牧師なしで毎週家庭集會を持ち、礼拝を私の家で数人集まってやっていました。そして絶えず、いつかラスベガスにも日本人教会を、と祈っておりました。そして、神様はこの祈りを聞かれ、このラスベガスの地に2002年に日本人コミュニティー教会が出来ました。本当に喜んでいきます。主は生きておられる。共におられる。なんと感謝なことでしょうか。

主が贖ったあの十字架は私のためであった。「イエスキリストは私の主。私は僕です」とはっきり言うことが出来ます。私はわがままで自分勝手にどうしようもない人間ですけど、イエスキリストにあって変えられていくことを私は確信します。私には何も誇るものがないけど、イエスキリストだけは誇っていきたい。

起きるとすぐ祈っていた母も今年100歳になり、先日はその母と沖縄で最後の時を一緒に過ごすことができました。明治生まれの母が救われて哀れみで私も救われました。母は、信仰という何にも変えられない素晴らしい財産を私に残して、天国へ行きました。肉親を失うことは辛い悲しいことですが、また天国で再会できる、そして今はもっともっと素晴らしいイエス様の元で母が過ごしている、と思うと平安があります。私の家族も救われることを信じています。

私の好きな聖句イザヤ書 46 章 4 節「わたしはあなたがたが年老いるまで変わらず白髪となるまであなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い持ち運びかつ救う」

ハレルヤ よみがえって私たちと共にいる主に感謝します。アーメン

案内・ニュース

- ・倉田薫姉、佐藤敏子姉がビザの更新と、お仕事で、今月日本に行かれます。すべての事に主の守りがありますように。
- ・7月20日(日)の礼拝後に教会総会を開きます。7月からの新しい教会年度が大きな前進の年となるために、主のヴィジョンに目が向けられる総会となりますように。
- ・7月23日(水)の6:30PMよりデュオ高瀬によるコンサートが持たれます。どなたでもお出で下さい。
- ・いよいよ今年も7月28日~30日に恒例の南加クリスチャン・リトリートがもたれます。どうぞ皆さんが早目に参加申し込みをして下さい。今回のメイン講師は中野雄一郎先生です。

DREAMS COME TRUE

- ☞ 教会堂の建設
- ☞ 敬老ホームの設立
- ☞ 幼稚園の設立